

米雇用統計は鈍化、製造業景況感はやや改善

ポイント① 労働需給の緩和が示される

1日発表の8月の米雇用統計では、非農業部門就業者数が前月比18.7万人増と市場予想（同17.0万人増）を上回りましたが、6月と7月の就業者数が計11万人下方修正されました。また、失業率が3.8%と2022年2月以来の水準まで上昇したほか、労働参加率が62.8%とコロナショック直前の水準に回復しました。10月の学生ローン返済再開に備え、仕事を探し始めた人が増えてきたようで、このことが今回の失業率上昇、つまりは労働需給緩和につながった可能性が考えられます。

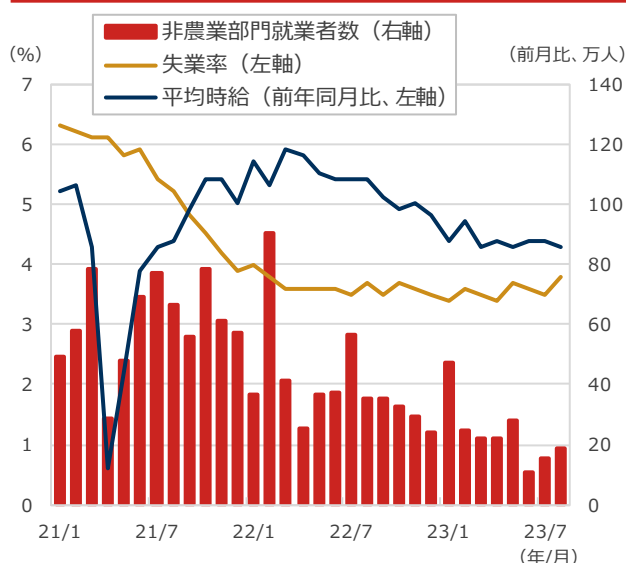
ポイント② 製造業景況感は2カ月連続改善

1日には8月の米ISM製造業景況感指数も発表され、47.6と好不況の分かれ目である50を10カ月連続で下回ったものの、2カ月連続で改善しました。新規受注指数などが7月から小幅に低下した半面、生産や雇用指数が改善したことが寄与しました。米ドル高に悩んでいた米製造業ですが、昨秋以降の米ドル指数反落などで景況感が改善し、生産や雇用にも前向きになってきた可能性があります。

ポイント③ 米国株、米長期金利が上昇

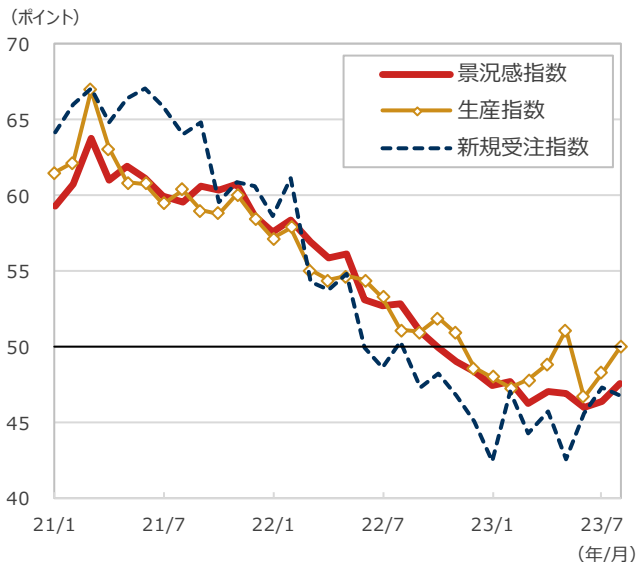
強弱入り混じる米経済指標を受け、1日のS&P500種株価指数は小幅高となり、米10年国債利回りは上昇（債券価格は下落）しました。今回の雇用統計などから、企業の採用意欲は底堅く推移する中、労働市場に人が戻ってきた（職探しをする人が増えた）可能性が考えられます。この状況が続けば労働需給の緩和につながり、サービス価格インフレも落ち着いていくことで、FRB（米連邦準備制度理事会）が米利上げの手を緩めていく可能性があります。

米非農業部門就業者数と失業率と平均時給



期間：2021年1月～2023年8月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数と生産指数と新規受注指数



期間：2021年1月～2023年8月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント
9月6日 米ISM非製造業景況感指数 (8月)
9月13日 米消費者物価指数 (8月)